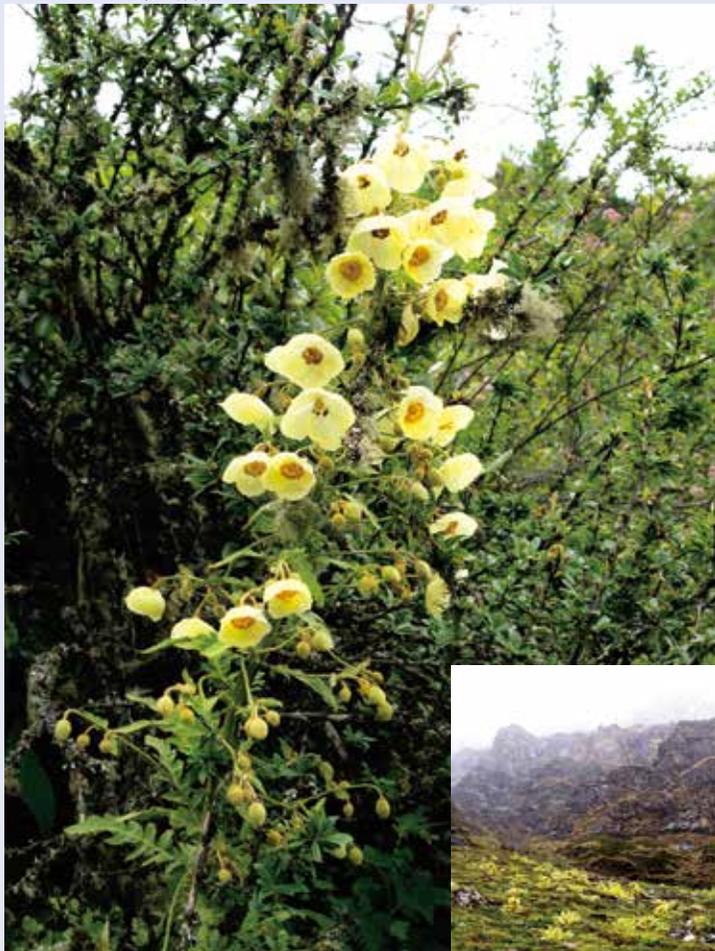


チェレイ・ラの東 標高 3800m



スノーマントレック ジュレ・ツォー (湖)
の左岸の群落 標高 4100m

幸せの国・ブータンの メリーポピーたち

9

松永秀和

メコノプシス・パニクラータ

これまで紹介した青いケシ（メコノプシス）は、険しい道を何日もかけて歩き、空気の薄い高地をあえぎつつ、やっと出会えた花であった。苦勞した分、感激もひとしおで、花は一層きれいに見えた。しかし、そんな苦勞をしなくても手軽に見ることが出来る青いケシがある。飛行場のあるパロから西へ舗装道を約2時間ドライブすると、チェレイ・ラ（峠）に達するが、その手前の斜面いっぱい黄色い大型の花が咲き乱れている。遠目にもすぐそれとわかる。メコノプシス・パニクラータだ。丈は100cm〜150cm。大きいものだと2mを越すものもある。直径15cmもある黄金色の花をたくさんつけている。これから開く蕾も多く、パニクラータ（円錐花序）の名の通り、鈴なり状になっている。分布は、東はインド・アルナーチャルプラデイツシユから西はネパール西部までと広い。これまでも、スノーマントレックやハのトレッキングでもよく見かけた。ポピュラーな青いケシだ。個々の花はあでやかで、形もよく、グラマラスな美人を連想させるのだが、大集団の中にあると、せつかくの魅力が埋まってしまう。また、どこでも見られることから、他の花を見るついでにしか訪ねられない、ちょっと残念な青いケシである。もちろん、見る人間の心理であって、花に何の咎もないのであるが…。